

令和4年度 利用学習事業実施報告



地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

目 次

I 利用学習の基本的な考え方	2
1 文化財普及活動と利用学習	
2 学校教育における位置づけ	
3 実施までの流れ	
II 利用学習事業参加校及び体験内容一覧	3
III 利用学習報告書（実績まとめ）	4～7

I 利用学習事業の基本的な考え方

1 文化財普及活動と利用学習

仙台市ではこれまで、文化財の保護・活用への理解と必要性について市民の理解と認識を深めるために、「文化財せんだい」等の各種広報誌の発行や埋蔵文化財の発掘調査時における遺跡見学会の実施など、数々の普及啓発活動を行ってきた。その成果もあり、一般に文化財に対する市民の関心は高く、また生涯学習への意欲も強い。

仙台市は平成4年に「仙台市旧石器の森・原始古代村構想」を策定した。昭和55年に保存が決定された縄文時代の遺跡である山田上ノ台遺跡と、旧石器時代の遺跡である富沢遺跡、多賀城以前の役所跡である郡山遺跡などを連携させながら、歴史教育の場としてそれぞれを整備していこうとする構想である。この構想を具現化する施設として、平成8年11月、遺跡の緊急保存を必要とした富沢遺跡に地底の森ミュージアムが開館した。以来、学校教育との連携を1つの大きな柱に掲げ、館の予算で送迎バスを借り上げ、見学や体験を中心とした学習活動を展開する利用学習事業を行ってきた。平成18年7月には分館として山田上ノ台遺跡に仙台市縄文の森広場が開館し、両施設を活用した利用学習事業が実施できることとなった。

また、平成14年度の仙台都市圏「どこでもパスポート」にはじまる、県内各圏域でのジュニアパスポート等を利用した見学も活発である。平成18年度からは「どこでもパスポート」の提示により平日も無料で入館できるようになったことで、学校が終わってから来館する児童・生徒の姿も見られる。利用学習事業参加の児童・生徒が家族や友人とともに再来館することも多く、本事業は学校教育との連携を促進するだけでなく、文化財に親しみ、愛護する精神を育成するきっかけとしても効果的である。

2 学校教育における位置づけ

学校教育の中での博物館利用については、令和2年度から全面実施された学習指導要領の中でその必要性が述べられている。小学校学習指導要領・社会科「●第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学校においては、地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。」「博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること。」と記載されている。

3 実施までの流れ

事業の参加校は、各学校宛に実施要項を送付し、年度分を募集して決定している。参加決定後は、来館前に当日の活動内容や体験等について、利用館と事前に打ち合わせをして利用学習計画書を提出してもらい、実施後は、事後指導の機会を利用して児童生徒の感想などを利用学習報告書と一緒に提出（感想まとめ等は任意）してもらっている。実施開始時期は6月からである。これは、令和2年度からの学習指導要領の改訂により、小学校6学年の社会科の歴史学習が6月後半から始まることに合わせている。

実際の活動については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、コロナ禍以前のような受入れ態勢はできず、内容や一回の収容人数を制限して実施している。学校はなかなか校外学習の実施が難しい状況にあるため、事前の打合せではその対策も含めて綿密に行っている。施設としても、極力、感染拡大がないように細心の注意を払ってこの事業を進めている。

Ⅱ 利用学習事業 参加校及び体験内容一覧

No.	利用日		学 校 名	参加 学年	申込人数		参加人数		体験活動								施設利用
					児童	引率	児童	引率	地底の森	縄文の森（土ミニ250g/土小500g）							
										勾玉	石アク	土ミニ	土小	土面	土笛	火起	
1	6月2日	金	中田小学校	6	84	4	84	4	84		84						両館
2	6月3日	火	鹿野小学校	6	67	3	63	3	63			63					両館
3	6月7日	火	八本松小学校	6	61	4	61	4	61				61				両館
4	6月14日	金	岡田小学校	6	30	2	30	2		30							縄文の森
5	6月17日	金	大和小学校	6	108	5	106	7	106		106						両館
6	6月21日	火	東仙台小学校	6	61	4	62	4	62		62						両館
7	6月22日	水	連坊小路小学校	6	99	5	98	4	98		98						両館
8	6月28日	火	立町小学校	6	29	3	28	3	28			28					両館
9	7月1日	金	向山小学校	6	48	3	48	3	48		48						両館
10	7月5日	火	台原小学校	6	98	5	91	5	91			91					両館
11	7月6日	水	秋保小学校	6	8	2	8	2			8					8	縄文の森
12	7月7日	木	四郎丸小学校	6	67	5	60	7	60		60						両館
13	7月8日	金	荒井小学校	6	72	4	70	4	70		70						両館
14	7月12日	火	太白小学校	6	48	3	48	3	48		48						両館
15	7月14日	木	蒲町小学校	6	115	5	111	5	111		111						両館
16	7月15日	金	折立小学校	6	36	3	34	3	34		34						両館
17	9月6日	火	東長町小学校	6	131	5	131	5			131						縄文の森
18	10月4日	火	鶴巻小学校	6	60	4	60	4			60						縄文の森
19	10月14日	金	長町南小学校	6	121	4	121	4			121						縄文の森
20	10月18日	火	茂庭台小学校	6	36	4	32	4	32	32							両館
21	11月2日	水	県立視覚支援学校	6	1	2	1	2					1				縄文の森
	9月21日	水	聖ドミニコ学院中	1～3	※ 台風接近のため中止												
			合 計		1380	79	1347	82	996	62	1041	182	62	0	0	8	

Ⅲ 利用学習報告書（実績まとめ）

参加校（全21校：小学校20校・視覚支援学校1校）

1. 『利用学習に参加して、施設を活用した学習活動が期待通りできましたか？』 ※回答17校

A:できた	B:できたが、期待通りではなかった	C:できなかった
17	0	0

この質問に対しては、回答のあった参加校の全てが「できた」という評価だった。以下に、その理由について詳細を紹介する。（○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見）

- 館内外を見学し、展示物を見たり触れたりすることで、授業で学んだ知識と結び付き、理解が深まったから。また、石のアクセサリーづくりを楽しみながら体験でき、縄文時代への興味が深まっていたから。
- 復元住居を見たり、館の職員の話を聞いたり、体験したりすることを通して、縄文時代の自然環境や人々の生活についての関心が高まったから。
- 見学・体験を通して、その時代の生活の様子等をしっかり学ぶことができた。
- 教科書や資料集だけではイメージが難しい石器時代や縄文時代の様子について、見学したり体験したりすることができ理解が深まった。また、石のアクセサリー作りや石器体験を通して歴史学習への意欲が高まった。
- 社会科で歴史の学習を行ってから活動できたことで、興味関心を高めることができた。また、学校で学習したことを体験したことで、学びが深まった。
- 展示による調べ学習や体験学習に対して、児童が意欲的に楽しみながら取り組む姿が見られた。
- 子供たちがとても意欲的に活動していて、期待した以上に良かった。
- 学校での学習内容と丁度かみ合っていて、深い理解につながった。また、職員の話もとても分かりやすく、質問にも丁寧に答えてもらった。
- 歴史学習の導入という状況での利用になったが、様々な体験ができたことで児童の意欲が高まった。早く歴史の学習をやりたいという声が多く聞かれた。
- 社会科の授業で、まだ歴史の学習に入っていなかったが、歴史に興味を持っている児童も多く、意欲的に学習をすることができた。1グループの人数構成を少人数にし、それぞれの担当職員に分かりやすく説明してもらったので、理解が深まり、今後の学習に対するより一層の意欲を持つことができた。「実際にこの場所にあった」ということは、子供たちの記憶に残る学習になったと思う。
- 体験活動を通して、当時の人の苦労などを体感することができたから。また、実際に遺跡を見たり触れたりしたことで、初めての歴史学習に対してより興味関心を喚起し、縄文・弥生時代だけでなく、それ以降の学習にも意欲的に取り組んでいる児童が多く見られるから。
- 児童は、勾玉作りを実際に体験したり、発掘された土器や復元された竪穴式住居を見学したりして縄文時代の人々の生活を身近に考え、感じ取ることができた。
- 勾玉作りは、子供たちは二度目（一度目は二年生の時の親子行事）であるが、どの児童も熱心に制作活動に取り組んでいた。また、「前回より良くてできた」「今回は自分の力だけで完成させられた」と満足そうに話す様子もみられた。縄文人の勾玉作りへの工夫を感じることができた。
- 児童が自分たちで見学・体験する時間を確保してもらいながらも、適宜アドバイスを職員やボランティアがしてくれたおかげで、有意義な学習の時間にすることができた。
- 両施設ともに、体験活動・展示物の見学ができ、縄文時代について理解を深めることができたと思う。また、

歴史や自分の地域の成り立ちについても興味を持つことができたと思う。

2. 『担当として本事業に今後も参加したいと思われませんか?』

※回答17校

A:思う	B:わからない	C:思わない
17	0	0

☞この質問に対しても、回答のあった参加校の全てが「思う」という評価だった。以下に、その理由について詳細を紹介する。(○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見)

- 児童にとって充実した時間になったから。歴史に興味を持っており、授業にも意欲的に取り組んでいるが、やはり実物を見たり、実体験ができたりする機会は重要だと考えるため。
- 担当の職員の話も分かりやすく、縄文時代についての理解が深まった。
- 石のアクセサリーづくりを通して、児童が達成感を得ることができた。
- 新型コロナウイルス感染防止対策が十分に取られていた。
- 見学・体験をすることによって、児童が興味をもち、知識をより深めることができる。
- 身近な地域にある遺跡に対して興味を持つきっかけとなり、今後の歴史学習への意欲にもつながっていると感じた。バス代を補助してもらえることも大変ありがたい。
- どのプログラムも児童が興味を持って取り組める内容になっており、学校での学びが生かされると思った。
- 教室では触れることのできない実物を介しての学習ができるため、児童の興味関心が非常に高まるのを感じた。
- 体験学習の質の高さと、学校から比較的近いことと、バス代の補助が出るから。
- 体験的な活動がとても効果的で、深い学びが保証される場になっていたと思う。縄文の森では、児童が体験し、手を動かすことで当時のことを実感して学ぶことができたと思う。地底の森では、石器を見分けるミッションという形の活動があったため、意欲的に取り組み、且つ、石器の使用の仕方を深く考えることができた。対話的な学びの形が実現されていたと思う。
- 他の施設と比べても体験活動が充実している。活動後、児童一人1人に制作した物が残るので、よい思い出になる。2つの施設を訪れることにより、教室の授業だけでは得られない学びが多くあると感じた。
- 歴史の学習において、実際の遺跡を見たり、専門に携わっている職員の話を聞いたりすることは、子供たちにとって大変有意義であると、改めて実感した1日だった。
- 児童が意欲的に活動に取り組む中で、より興味深く歴史に触れることができたから。
- 利用学習を通して、児童の学習活動への意欲が高まっていることを肌で感じる事ができたから。
- 「縄文の森広場」を利用して見学したり体験したりしたことで、資料では分からない縄文時代の人々の生活の苦勞を感じ、現代の生活の豊かさに気付くことができる。また、歴史学習の始めの単元として興味・関心が高められると思う。
- 社会科の歴史の縄文時代についての学習が深まるだけでなく、自分たちが住んでいる地域の歴史についても触れることができることは、児童にとっても意義のある活動だから。
- 土器作り、石包丁の体験活動ができ、校外学習ならではの活動ができたことが大きい。また、案内してもらった職員の話も大変勉強になった。

3. 『館職員へのご要望やご意見、今後の利用学習事業に期待することがあればご記入ください。』

(○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見)

- バス代の助成は大変助かった。

- とても丁寧に対応してもらい、ありがたかった。
- 展示や見学内容が前回よりもさらに改善されていて、工夫された学習内容になっていた。本当に、何回行っても興味を持つことができる。職員が日々研究しているのだなと感心する。
- どれも趣向を凝らしたプログラムで、児童は意欲的に学ぶことができた。また、感染症対策もちろんのこと、虫刺されスプレーまで用意してもらい、安心して活動することができた。大変感謝している。
- 大変丁寧に説明や指導をしてもらい、児童にとって実りある活動になった。
- 楽しく活動を進めてもらい、ありがたかった。
- これからも同様のプログラムで継続してもらいたいと思っている。
- 職員の説明が大変丁寧で、子供たちの活動がスムーズに進められた。また、早めの到着や厳しい暑さに対しても、丁寧に対応してもらい、ありがたく感じた。
- 児童の質問にも丁寧に対応してもらい、感謝する。目を輝かせながら意欲的に活動する姿がたくさん見られ、嬉しく感じた。
- △地底の森での展示学習をみる時間が少なく、子供たちが残念に思っていた。学年を二つのグループに分けて活動したため、縄文の森との活動時間に差があった。内容と学習時間の検討をしてもらえるとありがたい。
- 体験活動をしなが、その時代時代に関する興味をそそられる指導をしてもらい、たくさん学習できたことにみんな満足して帰ってきた。ワークシートの答えもその場その場で丁寧に説明してもらったので、よりわかりやすかったように思う。非常に貴重で充実した学習をさせてもらいありがたい。
- △芝生広場でのアトラクション(狩人の出現)が見られなかったことが少々残念だった。
- 勾玉作りの場の設定や、館内の見学と屋外施設の説明を分散して行うなど、コロナ感染予防対策を徹底してもらったことで、児童が安心して学習に臨むことができた。
- 館職員やボランティアへの感謝の思いが強い。活動時間や内容を柔軟に変更してもらったことも助かった。
- バス代の補助があり、大変助かった。今後の継続も希望する。

4. 『その他のご意見がございましたらご記入ください。』

(○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見)

- バス代の補助があり、大変助かった。
- このような社会状況の折にも、見学及び体験を受け入れてもらい感謝している。
- 子供たちにとっても大変貴重な機会となった。
- 児童が興味を持てるように分かりやすく説明してもらい、また、展示物や見学内容、体験活動内容も工夫してもらい、ありがたい。
- とても丁寧に指導・説明してもらい、ありがたかった。
- 昼食の際には、熱中症対策ということで、屋根のある場所を提供してもらい助かった。児童全員が体調を崩すことなく、安全に学び活動することができた。石のアクセサリは子供たちの宝物となった。丁寧に対応してもらい、ありがたかった。
- 石器に触れる体験や、土器づくり体験に集中して取り組む子供たちの姿に、学習の場として大変有効であると感じた。ぜひ、来年度も同様のプログラムで実施したいと思う。
- △大変お世話になった。こんなに素晴らしい思いを子供たちに持たせられる事業なので何も言うことはないのだが、ただ1点、バスの大きさを大型2台にならないのだろうか。今回、バス代を乗者人数一人当たり190円負担することになった。同じお金を負担しているのに、大型車に乗るクラスは全員一つのバスに乗り、中型車に乗るクラスは一部を大型車に学級を分割して乗せるという事態になった。できたら不公平感が出ないようにできないかと思う。

○このコロナ禍の中、細やかな気遣いをもらい、また、子供たちのためにいろいろ工夫してもらい、ありがたかった。おかげで、安心してじっくり歴史を味わうことができた。結果、とても得をした気分で、心より感謝する。

5. まとめ

令和4年度の利用学習事業参加申込は市内小学校22校で、1校のキャンセルがあったものの、21校が予定通り施設見学と体験学習を終えることができた。昨年度の全19校の参加数に比べると数的には若干回復しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加校は以前の水準には達していない。参加児童数で見ると、昨年度は1,220名で、今年度は1,380名となっている。ちなみに、コロナ禍以前の令和元年度は28校 1,869名の参加児童数であった。

この利用学習事業は、学校教育の中で「地底の森ミュージアム」及び「縄文の森広場」を効果的に活用する授業実践のために、各学校から両館への往復の交通費を補助するものであるが、事業予算の都合上、参加校数によって補助額が変動する。令和4年度は一部負担が発生したが、出来るだけ負担感を少なく、また使用するバスによって不公平感を生じないようにすることが望ましい。

新型コロナウイルス感染症に対する各館の対策としては、地底の森ミュージアムでは、3密の回避等が求められるなか、従来の石器製作体験は授業内容として不適と判断し、館員で検討して授業内容を開発した。ポイントは下記の点である。

- ・20名以下の小グループに分け、離れた会場で活動を行うことで密接を回避する
- ・近接しなくても説明や助言などを行うことができる活動内容にする
- ・児童が同一方向を向いて活動できるよう、座る位置などを調整する

＜令和4年度＞※グループに分かれ、生徒・児童数によって2つの活動(地下・1階展示見学+研修室)または3つの活動(地下・1階展示見学+研修室+芝生広場)をローテーションで行う。

会場	地下展示室 1階展示室	研修室	芝生広場(展望ラウンジ)
内容	遺跡の展示解説 年表を用いた説明・ワークシートを用いた自由見学	石器使用体験	狩人テント・野外展示の開設

また、縄文の森でも、見学は少人数に分けて案内をし、体験活動では1テーブル1名を基本に作業を進めた。児童数の多い学校では1テーブル2名の利用ということもあったが、対角に座りその間をアクリル板で仕切る対策を取った。昼食は、ほとんどの学校が広場を利用できる縄文の森でとった。雨天時は館内利用となったが、その場合は活動室のテーブルに2名がけで座り、間をアクリル板で仕切った。また、館内の場所を分けて、極力密にならないようにした学校もある。昼食をとる子供たちは、学校の給食時と同じようにしっかりと黙食をしていた。

このような両館の対策により、参加校はさほど心配なく見学や体験ができたと報告書でも評価している。

今年度の参加校から提出された事後報告書を見ると、上記1. 及び2. に前述していることだが、「利用学習に参加して、施設を利用した学習活動が期待通りにできたか」という問いには、参加校全てが「できた」と回答している。また、「本事業に今後も参加したいと思うか」という問いにも、同じく「思う」と回答している。その理由を大きくまとめると、多くの学校が、実際に展示施設を見学して本物に触れたり、当時の暮らしや技術を体験したりすることで、子供たちが歴史学習に興味関心を抱き、その後の学習意欲と理解の向上につながっているからということ挙げている。これは、先史時代を扱う歴史博物館としてその価値が評価されていると見ることができる。

両館が、博学連携・生涯学習活動を推進していく上で、本事業はその根幹となる事業の一つと言える。安心して利用学習事業に参加してもらえるように、また両施設の利用価値をさらに幅広く周知してもらうために、学校に対する情報発信をさらに積極的に取り組んでいかなければならない。